要　　約

１．本研究の概要

本研究は地域アイデンティティとしての福島潟の位置づけをより明確にするため、失われつつある潟自然を再び活性化しながら将来に残し、ともすれば保護か利用かという二極化した論議にさらされている現状に対して一つの新しい人間社会と自然との調和の方向性を提案するための研究である。

２．福島潟及び周辺の概況

１）福島潟の自然的条件

研究対象地の周辺は日本海とは砂丘によって仕切られた蒲原平野で最も低い平坦な地形を形成している。13 の中小河川が流入する福島潟は 240ha を有し、その流域面積は 11,600ha に及んでおり、重要な調整池としての役割を果たしている。現在の水深は 0.4～0.6m程で、水質は富栄養化頓向にあり、水面は強制排水によって概ね 0.5mに保たれている。潟内の植物については、干拓前は豊富であった水生植物群も干拓後は激減し、北限の地として有名なオニバスも全滅してしまっている。現況の植生を相観すれば、水面以外はほとんどヨシとマコモで覆われ、ヤナギ類がその中に点在している状況である。潟に生息する動物では鳥類が豊富で、これまで 17 目 40 科 210 種が確認されており、そのうち水禽類は 40%弱で、残りは陸鳥類である。潟湖であるにもかかわらず陸鳥が多いのは水面の比率が少ないことの影響であろう。一方、福島潟は生物層の豊富な県下最大の潟潮として「21 世紀に残したい日本の自然 100 選」や「にいがたの景勝 100 選」にも選ばれており、現況での景観に対する評価は高いと言える。その景観の特色は、潟の繧瀞たる原野とその背景をなす飯豊、五頭山系の山並みが折りたす自然景観の美しさであるが、さらに加えて、こぎだす木舟や舟付墨の生活空としての情景がうまく調和して詩情ゆたかな雰囲気を醸し出しているところにある。しかし、現況では水面が少ないため潟湖としての認識はしにくく、熱気球による調査によれば、やや離れた水田からは 30m まで上昇しないと全体の輸郭がつかめない状況であった。

２）福島潟及び周辺の社会的条件

福島潟は既に干拓された農地も含めて治水計画上遊水池となっており、洪永調節機能と周辺農地の乾田化のために水位は－0.5m に保たれている。潟全体は河川区域に、周辺農地は全て農用地域に指定されており、今後の整備に関しては、それらとの調整が必要となる。

福島潟の位置する豊栄市は県都新潟市に隣接しており、新興住宅地は新潟市のベッドタウンとして人口が増えつづけている。周辺地域には大規模な観光地はないが新発田城、足軽長屋、清水園(新発田市)、月岡温泉、月岡ランド、市島邸(豊浦市)、五頭連峰、五頭フィールドアスレチック、ゴルフ場、笹神村、瓢湖の白鳥(水原町)、豪農の館北方文化博物館(横越村)などがある。しかし、豊栄市には目ぼしい施設はなく、今後の福島潟の整備に期待がかけられている。

３）福島潟をめぐる歴史特性

福島潟は 1600 年頃から干拓が始まり、以来 1970 年代まで新田開発の歴史の中にあ

った。かつては胸や腰までつかる強湿田が普通で、厳しくてつらい作業の割には収穫量は少なく、乾田化が農民の夢であった。潟の水を機械的に排水する排水機場の完成によって一気に干拓は進み、その後農作業の機械化も可能となって収穫量も増大した。しかし、近年の減反政策によって、潟周辺の水田も畑地への転換や休耕田化を余儀なくされ、農業も質的転換期に差しかかっている。

４）福島潟に対する行政の動き及び住民の意識

潟をめぐるこれまでの行政レベルの取り組みは、昭和 40 年代までは食糧増産・農業基盤整備促進のための干拓と、人々の生活や農地を守る治水対策が中心であった。しかし、昭和 50 年代に入って、これらの他に、自然的価値の見直しを求める声の高まりとともに、自然的資源に対する調査が行われるようになった。

一方、民間レベルでは昭和 50 年代から福島潟の自然を守るための活動や調査が活発化し、昭和 60 年には 11 団体から成る福島潟浚渫促進協議会が発足し、20000 人近い住民の署名を集めて潟の浚渫の要望を提出している。また、今回の研究で行なった住民の意識調査からは次のようなことが明らかとなった。

〇潟周辺の集落の人たちと新興住宅地の人たちでは福島潟に対する認識にかなりのズレが生じている。(昔の潟を知らない新興住宅地の人々…ほとんど新潟へ通勤している…は、福島潟に対する興味も少なく、名前すら知らない人がいる)

〇半数近くの人が潟の姿がわかりにくいと感じている。

〇野鳥が豊富であるということは多くの市民は認識しているが、その名前を 3 種類以上挙げられる人は少ない。

〇 「21 世紀に残したい日本の自然 100 選」や「にいがたの景勝 1OO 選」に選ばれているにもかかわらず、福島潟を美しいと感じている人は少ない。